

(二―①) 主権者教育と関連付けられる指導

実践事例【小学校第五学年】

本当の自由とは何だろうか〔内容項目 A 善悪の判断、自律、自由と責任〕

◆教材名「うばわれた自由」

出典…「私たちの道徳」文部科学省 平成二十六年

〈ねらいとする道徳的価値について〉

自分自身をよりよく高めていくためには、自由な考えや行動が大切である。しかし、自由と放縦とは区別しなければならない。高学年の児童は、自主的に考え行動しようとする傾向が強まるが、その一方で、自由の捉え違いをして自分勝手な振る舞いをしてしまうことも少なくない。自由な考えや行動のもつ意味、さらにそれに伴う自分の責任を踏まえた自律的な行動について意識をもたせることが大切であると考えられる。また、主権者教育においても、自ら主権者となるということには責任が伴う。したがって、小学校の段階から主権者としての自覚を促し、必要な知識、価値観、判断力の習熟を進める学習に取り組みさせることが重要である。

ジェラール王子（教材における登場人物）自身が、国内の乱れが元で囚われの身となり、自由を奪われてしまった場面から、ジェラール王子が「自由」をおろそかにしていたためにこのような結果になったというメッセージは、小学校五年生には十分に読み取ることが可能である。そこで、児童に「自分がもっている自由には、どのような制約があるのか」について多面的・多角的に考えさせることによって、自由に付随する責任の存在やその重さを捉えさせる。

#### ◆ねらい

自分に与えられている自由について考えることを通じて、自由に付随する責任やその重さを捉え、自律的に判断し責任ある行動をしようとする態度を育む。

◆ 指導展開例

一 「自由」について、児童一人一人が考えをもつ。

(ワークシートを配布する)

【教師】今日は、「自由」について考えていきましよう。学校や家での様々な場面を思い起こしてください。こんなことが自由だと思うのは、どんなことでしょうか。例えば、何でしょうか。そうですね、休み時間に好きなことをすること、読みたい本が読めること、おやつを食べただけ食べること、ご飯をおかわりすること、いろいろとありますね。このように、学校やその他の場面で自分が自由になることはありますか。全員、ワークシートの一つ星(★)に具体的なことを書きましよう。(児童が書き終わるのを待つ)では、書きましたね。それは机の中に大切にしまっておきます。今日は、「うばわれた自由」というお話です。

(黒板に教材名を書き、「私たちの道徳」を開く 時間は五分)

二 教材「うばわれた自由」を読んで話し合う。

【教師】 それでは、「うばわれた自由」というお話を読みます。「私たちの道徳」の三十四ページを開きましょう。(範読する)

【教師】 二人の登場人物が出てきましたね。ジェラル王子は国の王子、ガリユールはきまりを破った者を取り締まる仕事をしています。ジェラル王子が森で狩りをしているところをガリユールが追いかけてきました。そこで何がありましたか。そう、ジェラル王子はガリユールの言うことを聞き入れませんでした。そこで、ガリユールは、「したいことをしたいようにさせては、他の者は迷惑です。」と言いました。

「他の者は迷惑です。周りのことを考え、ご自分の心をおさえてください。」  
このようなガリユールの言葉を聞いたジェラル王子はどんな気持ちでしょう。  
(三名程度指名する 時間は五分)

【児童A】 私は王子だから何をしてもいいんだ。何にもしぼられないぞ。

【児童B】 規則なんてかたいものはどうでもいい。

【教師】 規則はかたいものだ、とジェラル王子は思

っているのですか。

【児童B】 そうだと思う。規則があると、自分がしたいことが自由にできなくなる。

【児童C】 森の中で、しかも誰もいないのだから誰にも迷惑をかけていない。

【教師】 王子には「私は王子だから特権がある。」「きまりにしばられていたらきゆうくつだ。」「したいことをしたいようにできる自由こそが自由だ。」等の考えがあるのですね。ジェラル王子は、自分のわがままで何とでもなると思っているようですね。しかしこの後、国が乱れましたね。国中の人々も勝手なことをする。ジェラル王子のそばに仕える人もぜいたくな暮らしをして、ジェラル王子は、とうとう牢屋に捕えられてしまいました。

牢屋ではらはらと涙を流しているジェラル王は、どんな気持ちでしょう。

(三名程度指名する 時間は五分)

【児童D】 自分の気持ちをおさえて、ガリユーの言うことを聞いておけばよかった。

【児童E】 わがままを言わなければ国も乱れなかつ

た。私のせいだ。

【教師】 捕えられてはじめて、王は自分の言動に反省したり後悔したりしているのですね。涙を流したのは、反省や後悔の思いだけなのでしょうか。

自由を奪われたジェラル王は何に気付いたのでしょうか。

(牢屋で涙を流しているジェラル王の気持ちからは、反省や後悔に終始した発言が考えられる。「自由」の意味を考え、自由と自由きままにすることの違いに気が付いたジェラル王の気持ちについて児童の気付きを引き出すための補足発問)

【児童F】 自由と自分勝手にするということは違うんだ。

【児童G】 私が考えていた自由は、自分に都合の良いだけの自由だった。

【教師】 ガリユーはジェラル王に、自分だけに都合のいいようにすることは本当の自由ではないと決死の覚悟で訴えていたのですが、捕えられる前のジェラル王には分からなかったのですね。しかし、捕えられ自由を奪われては

じめて、「自由」について考え始めたということが、ここまでのみなさんとの話し合いです。さて、授業の始めに、自分が自由になることについて書いてもらいました。それを出しましょう。もしかしたら、当たり前とみんなが言ったことにも、ジェラルド王のように「これだけは守らなければならない。」ということがあるのかもしれない。先ほど、ご飯のおかわりは自由だと言ってくれましたが、本当にそうですか。みんなが考えている自由にも何らかの気を付けなければならぬことはないでしょうか。それでは、ワークシートの二つ星(★★)の枠に、はじめに書いたことの自由が自由であるために、気を付けなければならない、と思うことを書きましょう。

(ワークシートに書く)

#### 〈議論に値する発問〉

あなたにとって、「自由」とは、どのようなことですか。それが「自由」であるために、考えるべきことは何だと思いますか。(時間は二十五分)

#### 【教師】

それでは、これから、自分の考えや友達の考えについて三人グループで話し合います。三人グループ(班)になりましょう。話し合う内容と話し合う方法について説明します。まず、一人ずつ自分の考えを発表します。発表した人に対して、他の三人は、「うに気を付けるのはよいことだと思う。」「うということにも気を付けなければならないのではないか。」など、発表した人の考えに賛成すること、付け足すこと、賛成できないこと(その場合は、理由と代案を出す。)について発表します。このような手順で一巡したら、再度、個人で考えをまとめます。では、始めます。(進行状況を把握する)

#### 〈話し合いの様子〉

発表者…私は、いつでも好きなききに友達と話すことが自由だと思えます。そのためには、友達の話もきちんと聞くことが大切だと考えました。

意見①…友達の話を中心に聞くことで、お互いの考えを理解することができるので私も賛成です。

意見②…その他にも、友達と仲良くしていくために、

きまりを守る事が大切だと思います。

発表者…私は、好きなだけ絵を描くことが自由だと思います。気を付けることは、家の人の中に、他にも使いたい人がいることを考えて紙を使い過ぎないことと、絵を描いた後、道具を散らかしたままにしないことです。

意見①…紙を使い過ぎないというのは、家の人のことを考えているということなので、よいことだと思います。

意見②…道具を散らかさないことに賛成です。皆がけがをすると危ないので、人の迷惑にならないように道具を片付けることは大切だと思います。

【教師】終了です。各グループ、活発な話し合いが行われていましたね。自分の発表に、グループの人からどんな意見が返ってきましたか。友達の見聞を聞いて、「なるほど」と思ったり、新たに考えたりしたことがあるかもしれませぬね。それでは、ワークシートに、グループでの話し合いを踏まえて、さらに考えたことを書きましょう。(時間は三分)

【教師】では、どのような話し合いがあったのか教えてください。

【児童K】私は、「遊びたいことが選べること」が自由だ

と思います。でも、それは、約束やきまりがない方がよいとか、守らなくてよいとか、いうのではなく、他の人の迷惑にならないように気を付けなければならぬということなんです。

【教師】Kさんの考えについて、グループの友達からどのような意見がありましたか。

【児童L】ぼくは、Kさんの考えに加えて、どの学年も安心して遊べるように気を付けることが大切だと思います。

【教師】みんなに迷惑をかけないことも、どの学年の人もみんなが安心して遊べるようにすることも、どちらも大切だと考えたんですね。他のグループはどうですか。「自由」について、他に意見が出たグループはありますか。(二又は三グループが発表する 意図的指名をする)

### 三 学習のまとめをする。(時間は五分)

【教師】「私たちの道徳」の三十一ページを開きましょう。本当の自由について、ギリシャの数学者であり哲学者である、ピタゴラスという人と、明治時代の思想家で、私立大学の前身を

創設したことで知られ、一万円札の顔としても有名な福澤諭吉は、次のように言っています。心の中で読みましょう。

ピタゴラス（ギリシャの数学者、哲学者）

「自制心のない者に自由はない」

福澤諭吉（明治時代の思想家、教育者）

「自由とわがままとの界は<sup>さかい</sup>

他人のさまたげをなすと

なさざるとの間にある」

昔の人も自由について、どうあるべきかいろいろと考えていたんですね。

今日は、「本当の自由とは何だろう。」ということについて学習しました。

（ワークシートは回収する）

〔小学校〕道徳科学習シート 五年  組  番 名前

★ 自分の考えをまとめ、友達と話し合ってみましょう。

私は、「

は自由である。」と考える。

★★ しかし、それが自由であるためには、

に気を付けなければならない。

グループでの話し合いから、考えたこと





# 「うばわれた自由」

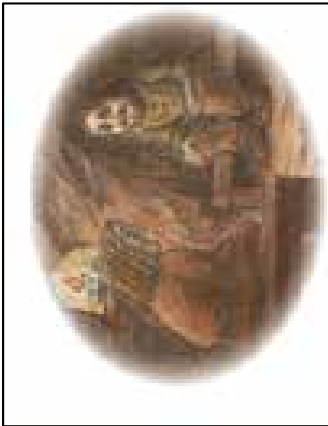
「他の者はめいわくです。周りのことを考え、自分の心を抑えてください。」



- ・王子だから何をしてもいい。
- ・王子だから規則を守らなくてもよい。
- ・規則なんてどうでもいい。
- ・誰にも迷惑をかけてはいない。

わがままに  
気付く

牢屋ではらはらと涙を流しているシエラール王は、どんな気持ちでしょう。



- ・ガリエーの言うことを聞いておけばよかった。
- ・わがままを言わなければ国も荒れなかった。
- ・自由と自分勝手とは違う。
- ・自分に都合のよいだけの自由だった。

あなたにとって、「自由」とは、どのようなことですか。  
それが「自由」であるために、考えるべきことは何ですか。

○遊びたいことを自由に選ぶことができる。



他の人にめいわくがかからないように気を付ける。

## 「うばわれた自由」(小学校教材)

「ダッダーン！」

また、夜の明けぬ森の中で、一発の銃声じゆうせいが山々にこだました。森の番人ガリューは、急いで身支度みじたくをすると、銃声の聞こえる方に馬を走らせた。どこの森でも日の出前には狩りかをしてはならないというきまりがあった。そのきまりを破やぶった者を取りしめるのが、ガリューの仕事である。

「ダッダーン！」

身近に聞こえた銃声から、場所をつかんだガリューは、全速力で馬を走らせた。しばらく行くと、うす明かりに、馬に乗った三人の姿すがたがうかび上がった。

そして、ガリューが近づいていくと、ひときわ目立つ服装ふくそうをしている若者わかものが、

「森番。何か用か。」

と、にらみつけるようにして声をかけた。

「ここは、日暮ひぐれから日の出まで、狩りをしてはならない所と知ってうったのか。」

ガリューは、強い調子で言った。

「もちろん知っておる。」

「知っていないが、なぜ、銃をうったのだ。」

「遊びだ。酔い覚よましには、ちょうどよいのでな。」

「何を言っているのだ。きまりを破やぶっておきながら。とらえてや

る。」

ガリューは、きっぱりと言った。

「私わたしをとらえることができるかな。私は、この国の王子、ジェラルじやらるだぞ。」

ガリューは、おどろいた。目立った服装の若者は、なんと、わがまま者のジェラル王子であった。ジェラルは、勝手気ままにふるまい、みなからおそれられていた。

「さあ、とらえられるものなら、とらえてみる。」

ジェラル王子は、いばって言った。しかし、ガリューは落ちて、

「ジェラル王子の名を使って、この場をにげようとしても駄目だめだ。」

と、言い切った。

「もう一度言う。私はジェラル王子だぞ。王子をつかまえられるのか。」

「だれであろうと、国のきまりを破やぶったからには許ゆるせません。国のきまりは、みなが勝手なことをしないようにするためにあるのです。」

ガリューは、殺されるかもしれないと思ったが、必死になってうったえた。

「固いことを言うな。みんな、したいことをしたいようにできる自由な暮くらしを望んでおるのだ。お前みたいに、大したことでもないのに大げさに、きまりだの、何だの言いっていたら、世の中、きゆうくつでたまらんではないか。なあ、みんな。」

「はい、おっしゃるとおりで……」

他の二人の男たちも、王子のご機嫌をとるように言った。

「いや、今、あなた方が言っている自由というのは、自分だけに都合の良いようにすることで、本当の自由とは申しません。わがまま勝手というものです。」

決死の覚悟でうったえるガリユートの勢いにおされて、王子は言葉が詰まった。

「したいことを、したいようにされては、他の者はめいわくです。周りのことを考え、ご自分の心をおさえてください。」

「ええい、生意気な。私に意見しようと言うのか。」

「もし、本当に、あなた様がジェラルル王子ならば、なおさら、手本となるよう、勝手なふるまいをつつしんでください。」

「うるさい。王子に逆らうとは無礼なやつ。こいつをしばり上げろ。」

とうとう、ガリユートは、逆に、とらえられ、ろう屋に入れられてしまった。

まもなく王様がなくなり、ジェラルル王子が王位を受けつくと、ジェラルルのわがままはいっそうひどくなった。それを見習って、国中の人々も、勝手なことを平気でやるようになり、世の中が乱れてきた。

ジェラルル王のそばに仕える者も、ぜいたくな暮らしをし、毎日、勝手気ままにふるまっていた。中には、ジェラルル王に代わって、自分が王になろうと考え、密かにその機会をねらっている者もいた。そして、ついに、ジェラルル王は裏切りにあい、とらわれの身となってしまった。

暗いどうくつに作られたろう屋で、ジェラルル王がおくの方に目をやると、うす明かりの中に、一人の男が静かにすわっているのが見えた。

「ジェラルル王、あなた様も、とうとう、自由をうばわれてしまいましたな。」

と、低い声で語りかけてきた。

「そういうお前はだれだ。」

「お忘れになれるのも当然。私は、森の番人ガリユートでございます。」

「森の番人？ガリユート？おお、あのときの……わずかしが時がたためのに、すっかりやつれてしまったのう。」

しばらくの間、二人は向き合ったままだまっていた。

「ガリユート、あのとき、お前の言葉を受け入れ、わがままな心を正すことができたなら、このように国が乱れることもなかったであろうに……」

と、言って、はらはらとなみだを流した。

しばらくして、ガリユートはろう屋から出されることになった。

ろう屋を出るとき、ガリユートはジェラルル王をふり返り、「あなた様も、きっとそこから出られる日が来るでしょう。そうしたら、ご一緒に、本当の自由を大切にして、生きてまいりますよう。」

と、言って、去って行った。

「私たちの道徳」小学校五・六年 文部科学省 平成二十六年